



図書館だより

2018 9月
能勢高等学校 図書館
豊中高校能勢分校図書館

もうすぐ文化祭だね！

新しい本、入りました。

【第158回芥川賞受賞作】



百年泥 石井遊佳著 新潮社

私はチェンナイ生活三か月半にして、百年に一度の洪水に遭遇した。橋の下に逆巻く川の流れの泥から百年の記憶が蘇る！ かつて綴られなかった手紙、眺められなかった風景、聴かれなかった歌。話されなかったことば、濡れなかった雨、ふれられなかった唇が、百年泥だ。流れゆくのは—— あったかもしれない人生、群れみだれる人びと……

【2018年回本屋大賞受賞作】

かがみの孤城 辻村深月著 ポプラ社

部屋に閉じこもっていたところの目の前で、鏡が光り始めた。輝く鏡をくぐり抜けた先の世界には、似た境遇の7人が。秘めた願いを叶えるため、7人は城で隠された鍵を探す。



25年目の「ただいま」 サルー・ブライアリー著 静山社

5歳の時、迷子になったサルー。運よくオーストラリア人夫妻の養子になるが、インドの家族を忘れたわけではなかった。青年になった彼は記憶を頼りに、グーグル・アースを利用し、故郷の町を探し始める。

SNS炎上 長江優子ほか著 金の星社

高校生のカレンが、ネットに投稿した写真が原因で精神的に追い込まれていく『見えない炎』など、SNSの怖さを描いた3話を収録。



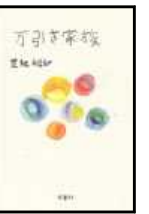
いつも日本語で悩んでいます 朝日新聞校閲センター著 さくら舎

「希望を与える」は失礼？ 「真田丸」の「丸」って？ 「〇〇すぎる」は新しいほめ言葉？ 日々ことばと格闘している朝日新聞社の校閲センター員が、ことばに関する疑問に答える。ことばづかい、読み方・書き方、字源・語源、若者ことばから死語のはなしまで、縦横無尽に展開。



万引き家族 是枝裕和著 宝島社

高層マンションの谷間に取り残された平屋に住む、夫婦と息子、妹。彼らの目当ては祖母の年金。足りない生活品は万引きで賄う。家族は「犯罪」でしかつながれなかった…。 是枝監督が自ら描く、映画ではかなり尽くせなかった「家族」の在り方。



ニュータウンの社会史 金子 淳著 青弓社

高度経済成長期、人びとの「憧れ」とともに注目を集めたニュータウン。50年を経て、現在は少子・高齢化や施設の老朽化の波が押し寄せている。日本最大規模の多摩ニュータウンを中心にその軌跡を辿り、地域社会の変貌を描く。

さとやま 生物多様性と生態系模様 鷺谷いづみ著 岩波ジュニア新書

かつては身近だった草花や昆虫たちが、いま絶滅しようとしています。彼らのすみかだった「さとやま」とは、ヒトの節度ある自然の利用や管理によってつくられた、水田やため池、茅場や雑木林などがパッチワークのような模様を生む、変化に富んだ半自然です。衰退の危機にあるさとやまの歴史や価値をさまざまな角度から描き、再生の道を考えます。



汗はすごい 菅屋潤壹著 筑摩書房

「汗をかけば解熱する」は科学的には真逆！ もっとも身近な生理現象なのに誤解される汗。汗とは一体何か。最新の脳科学の成果から疾患による影響、いい汗を爽快にかく方法まで、汗のすべてを発汗生理学の権威が解き明かす。

家の中のすごい生きもの図鑑 久留飛克明著 山と溪谷社

外壁や軒下にいるニホンヤモリ、ベランダにいるハシブトガラス、庭にいるクマバチ…。最も身近にしながら、意外と知らない家の中にすむ奇妙な生きものたち全64種が、自らの暮らしぶりを語る。彼らとの付き合い方もわかる本。「ちょっと怖い…」を解消できる知識を収録。



息子が人を殺しました 加害者家族の真実 阿部恭子著 幻冬舎

連日のように耳にする殺人事件。当然ながら犯人には家族がいる。本人は逮捕されれば塀の中だが、犯罪者の家族はそうではない。ネットで名前や住所がさらされ、マンションや会社から追い出されるなど、人生は180度変わる。突然地獄に突き落とされた家族は、その後どのような人生を送るのか？日本では初めて加害者家族支援のNPO法人を立ち上げた著者が、その実態を赤裸々に語る。



【コミック】



フラジャイル12 恵 三朗著 講談社

ちはやふる38・39 末次由紀著 講談社

